

走って、地域の魅力を再確認

「只見線リレーマラソン」開催

JR只見駅から会津若松駅までの28駅27区間をタスキで繋ぐリレー形式のマラソンイベント「只見線リレーマラソン」が3月29日に開かれました。

地域の魅力を再発見し、「マイレール意識」を高め、只見線を応援しようと昨年から開催されており、2回目の今回は只見町、金山町の有志の他、会津若松市等からもランナーが参加し、31人が只見線沿線を駆け抜けました。

参加者は「スタート時には降雪があり寒かったが、沿線や駅で応援してくれた人や企画を支えてくれた方のおかげで楽しく走ることができた」と話しました。



▲会津若松駅でゴールテープを切ったランナー

新たな生活が始まる「山村教育留学生対面式」実施



▲只見町で新たな生活を始める山村教育留学生6人

「只見町山村教育留学生第24期生対面式」が4月9日に只見公民館で行われ、県内外から6人の山村教育留学生が只見町での生活をスタートしました。

対面式では、渡部町長と佐藤町議会議長からお祝いの言葉が送られた後、山村教育留学生が只見高校生として3年間の高校生活でやりたいことや、将来の夢、抱負を話しました。また、記念品として町から、只見町商品券や只見学ガイドブックが贈られました。

地域を綺麗に「ちょボラごみ拾い」実施

朝日地区地域づくり委員会の主催で「ちょボラごみ拾い」が4月19日に開催されました。今年は、朝日小学校児童も参加し、地域住民も含めて約160人が朝日地区内の国道や県道などでごみ拾いを行いました。

ちょボラごみ拾いは、環境美化への取り組みを通して、ごみ問題や環境問題に関する意識の高揚を図ることを目的に開催されており、また子どもから大人まで広く集まるため、地域の交流の場にもなっています。

参加者らは、会話を楽しみながら、地域の美化に努めました。



▲ごみ拾いに集まった地域住民の皆さん

只見町の春を感じる「野生植物の花観察会」開催

只見町ブナセンター主催の「野生植物の花観察会」が4月26日に黒谷入地区で行われ、町内外から16人が参加しました。当初は深沢地区で開催予定でしたが、残雪が多かったため観察地を変更しての開催となりました。

観察地には、カタクリ、キクザキイチゲ等の春植物が花を咲かせており、フクジュソウは一面の絨毯となって咲き乱れ、参加者は感嘆の声を上げました。また、絶滅危惧種のユビソヤナギの観察も行い、河川環境との関係も理解を深めました。他にも、この時期の只見町ならではの雪食地形と残雪、ブナの新緑、オオヤマザクラの花などが同時に見られる美しい景観も楽しむことができました。



▲辺り一面に咲いていたフクジュソウ

新緑と残雪を楽しむ「ブナ林の新緑観察会」開催



▲雪が残るブナの二次林

只見町ブナセンター主催の「ブナ林の新緑観察会」が4月27日に癒しの森で開かれ、町内外から9人が参加しました。

林内にはまだ多くの残雪があり、ブナの新緑と残雪のコントラストを楽しむことができました。道中では、秋に落ちたヤマナシ（オオウラジロノキ）の果実や、ブナの花を観察しながら目的のブナ林まで進み、あまり人の手が入っていない原生林に近い自然林と、伐採後に再生した二次林を観察し比較しました。その後、戸板山眺めで咲き始めのオオイワウチワの花を楽しみ折り返し、参加者らは、只見町らしい残雪と新緑のブナ林を体験しました。

山岳・自然分野の写真芸術の写真賞 中野さん 田淵行男賞を受賞

田淵行男賞写真作品公募実行委員会が主催する山岳、動植物の生態、自然環境をテーマにした組み写真をプロアマ問わずに公募する写真賞「第7回田淵行男賞」の一般の部において、中野陽介さんが「田淵行男賞（大賞）」を受賞しました。

受賞作品は「雪と共に生きる～雪国・福島県只見町の自然と人の暮らし～」をテーマに20枚組写真で、只見町の自然風景や生物・人の営みなどを写した作品です。

受賞作品や今後の作品展示などにつきましては、田淵行男記念館ホームページ又はフェイスブックをご覧ください。



▲受賞した中野さん